

北海道の水道の概要について

令和元年8月28日

北海道環境生活部環境局環境政策課

北海道の現状①

■北海道の特徴

広大な面積。人口密度低。市街地は広域分散型。積雪寒冷地。
⇒ 施設整備費や維持管理費が割高。

■北海道の水道

水道事業数(平成29年度末現在)

上水道事業 : 94事業 (前年度より 1増、10年前より 7減)

簡易水道事業 : 212事業 (前年度より27減、10年前より110減)

※水道用水供給事業 : 5事業

⇒ 水道事業者の9割以上が給水人口5万人未満。

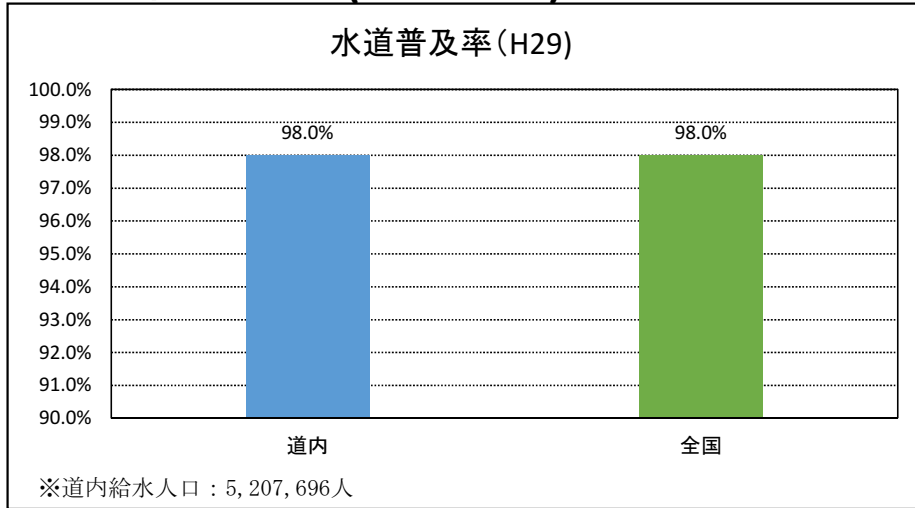
上水道事業 : 計画給水人口5,001人以上

簡易水道事業 : 計画給水人口101人以上5,000人以下

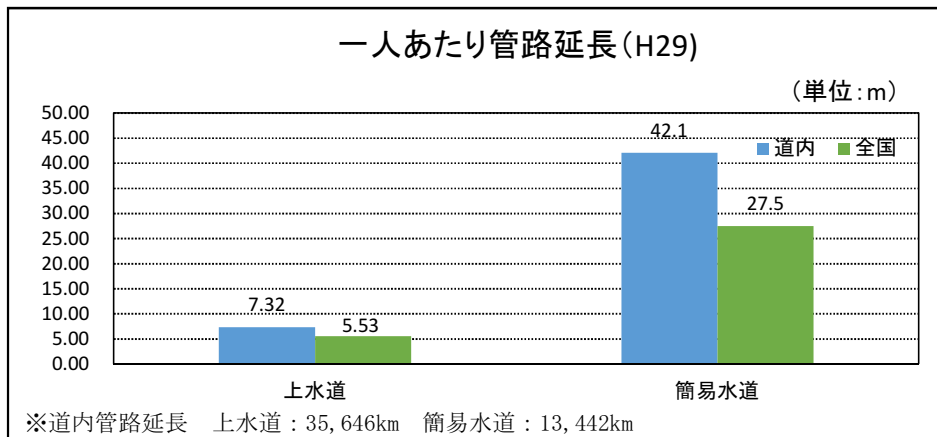
水道用水供給事業 : 水道事業者へ水道用水(浄水)を供給する事業

北海道の現状②

○水道普及率 (全国水準)

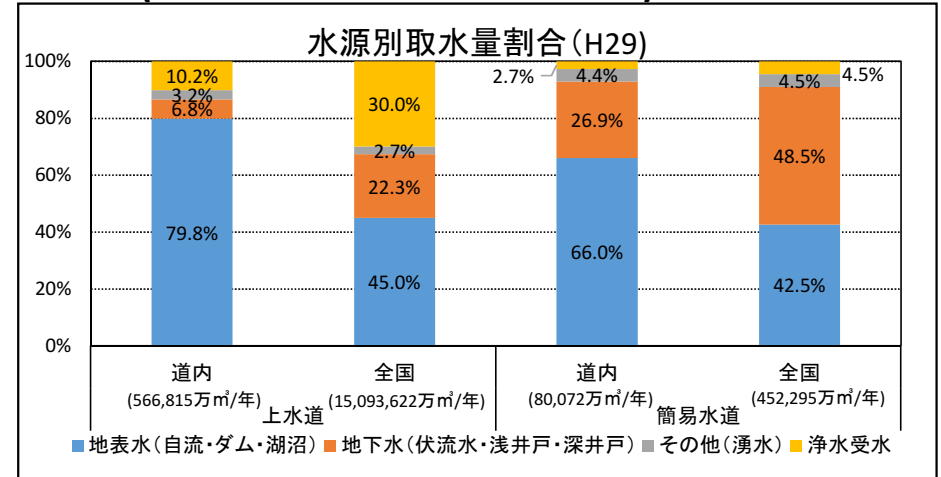


○1人あたりの管路延長(全国平均の1.3~1.5倍)



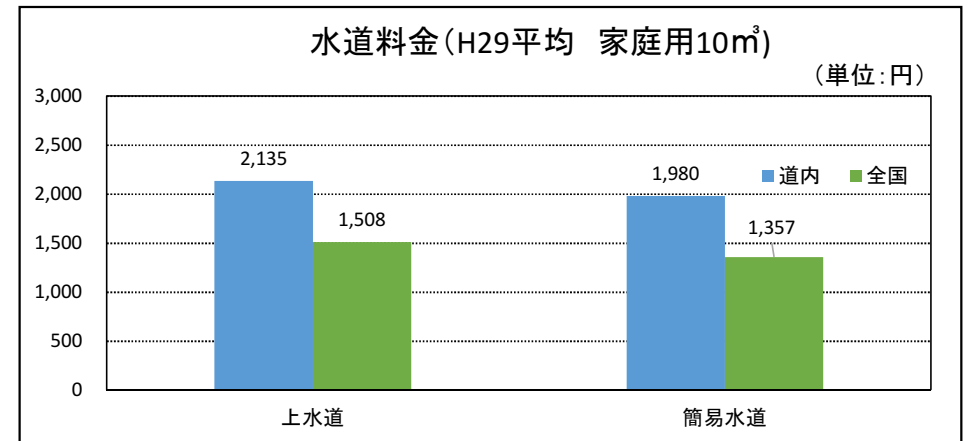
※全国の上水道データのみH28のもの

○水源(全国より自流水の割合高い)



※全国の上水道データのみH28のもの

○水道料金(全国平均の1.4倍)

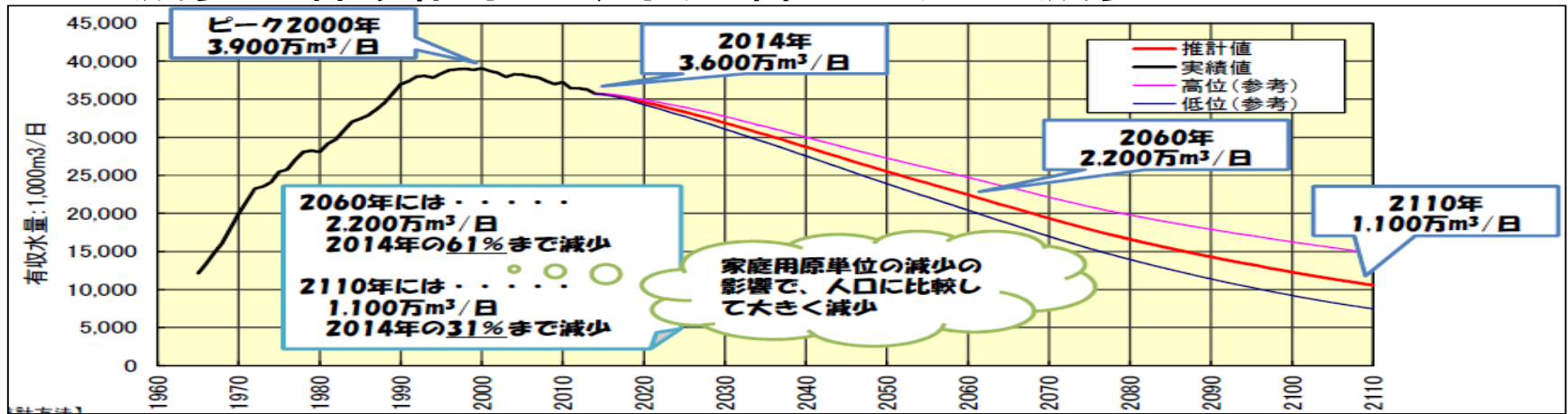


※全国の上水道データのみH28のもの

※水道統計・全国簡易水道統計より

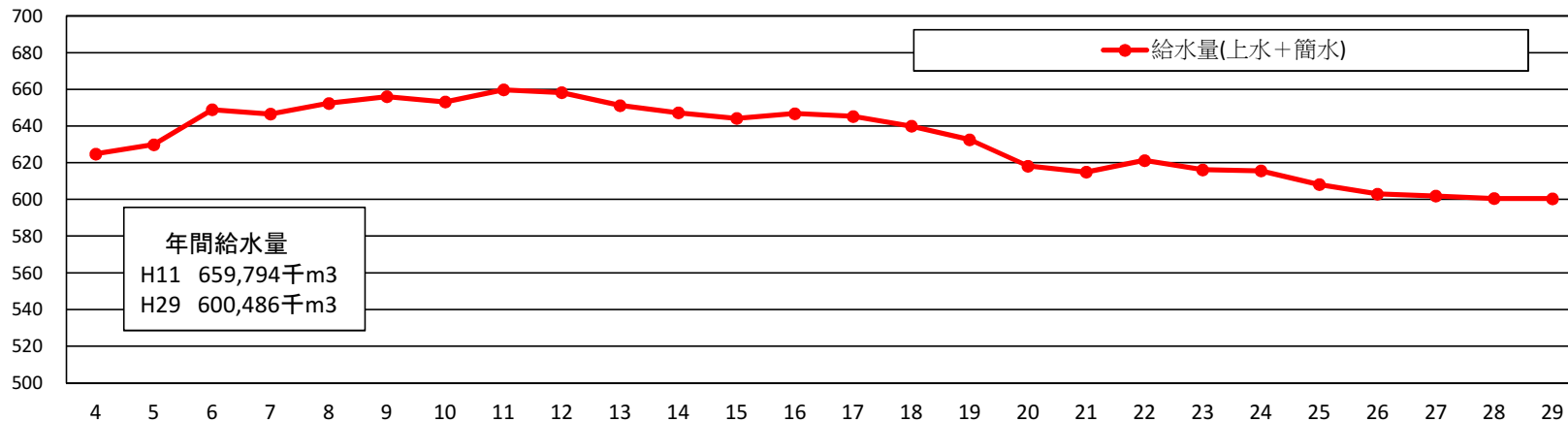
道内の水道が抱える課題①

●人口減少に伴う給水量、水道料金収入の減少



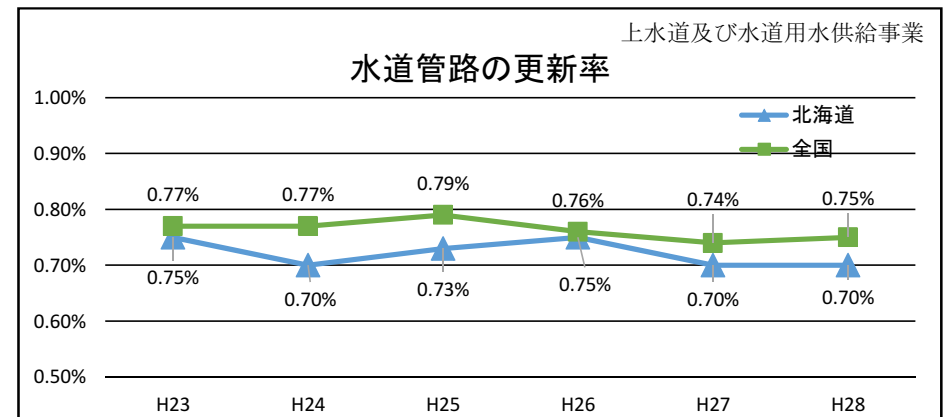
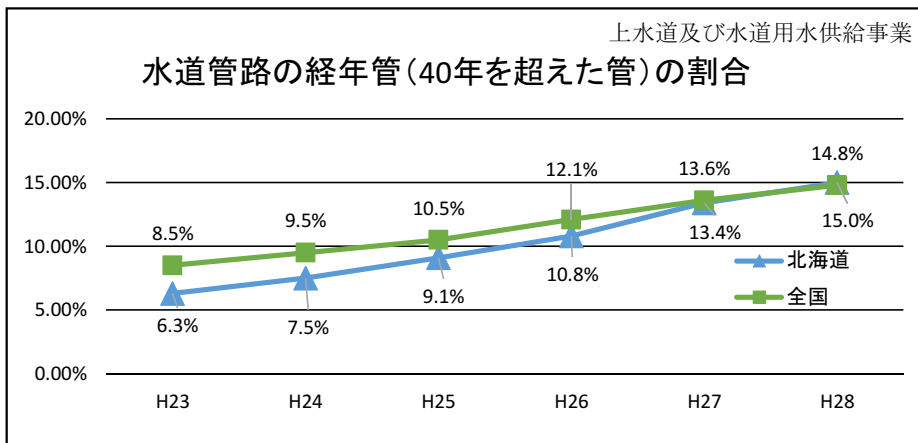
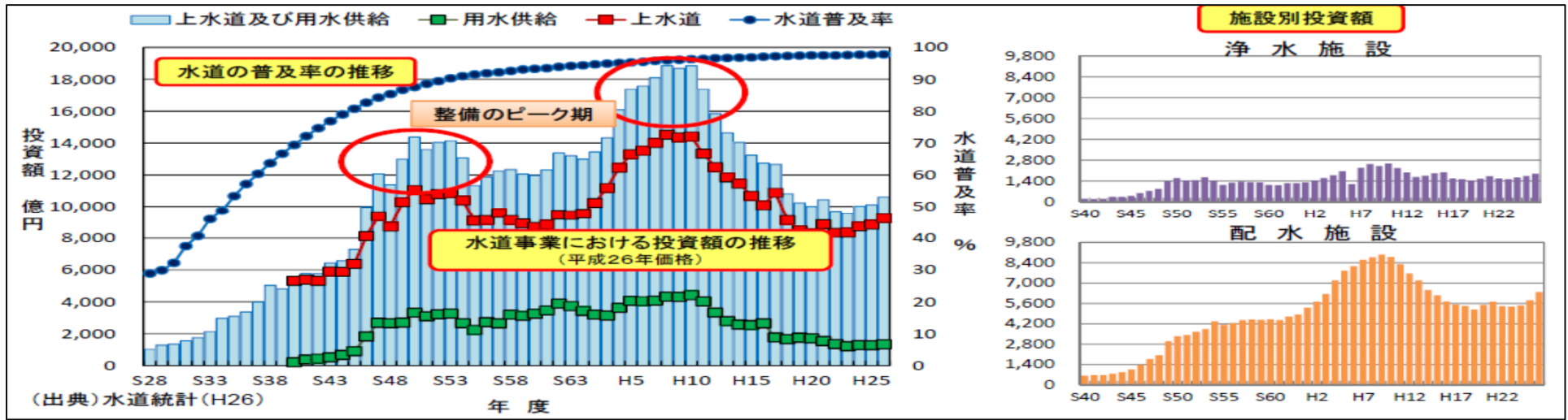
北海道における 年間給水量の推移

※水道統計より



道内の水道が抱える課題②

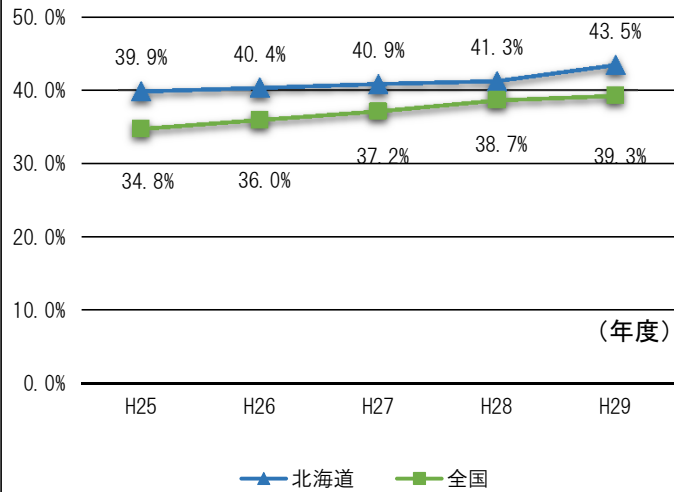
●水道施設の老朽化、更新・耐震化の遅れ



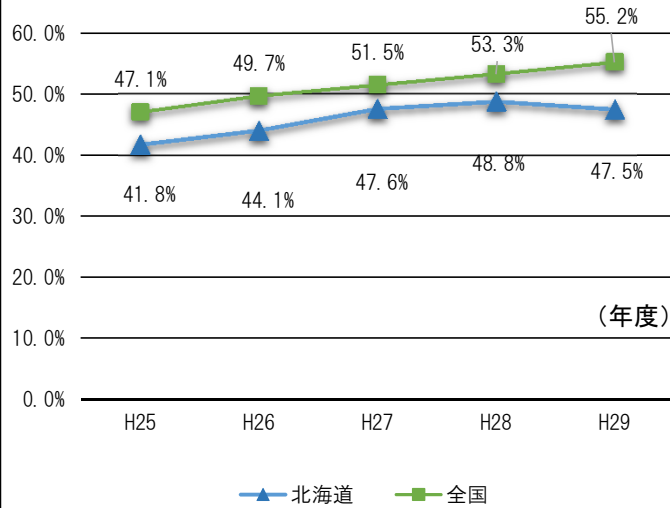
※水道統計より

水道施設の耐震化状況(上水道及び水道用水供給事業)

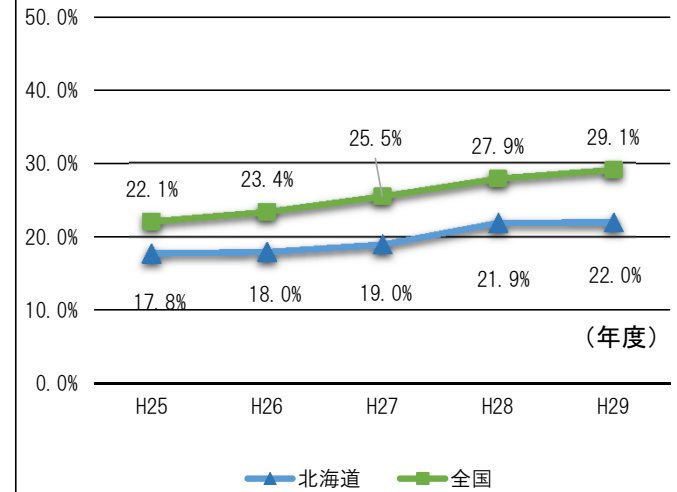
基幹管路の耐震適合率



配水池の耐震化率



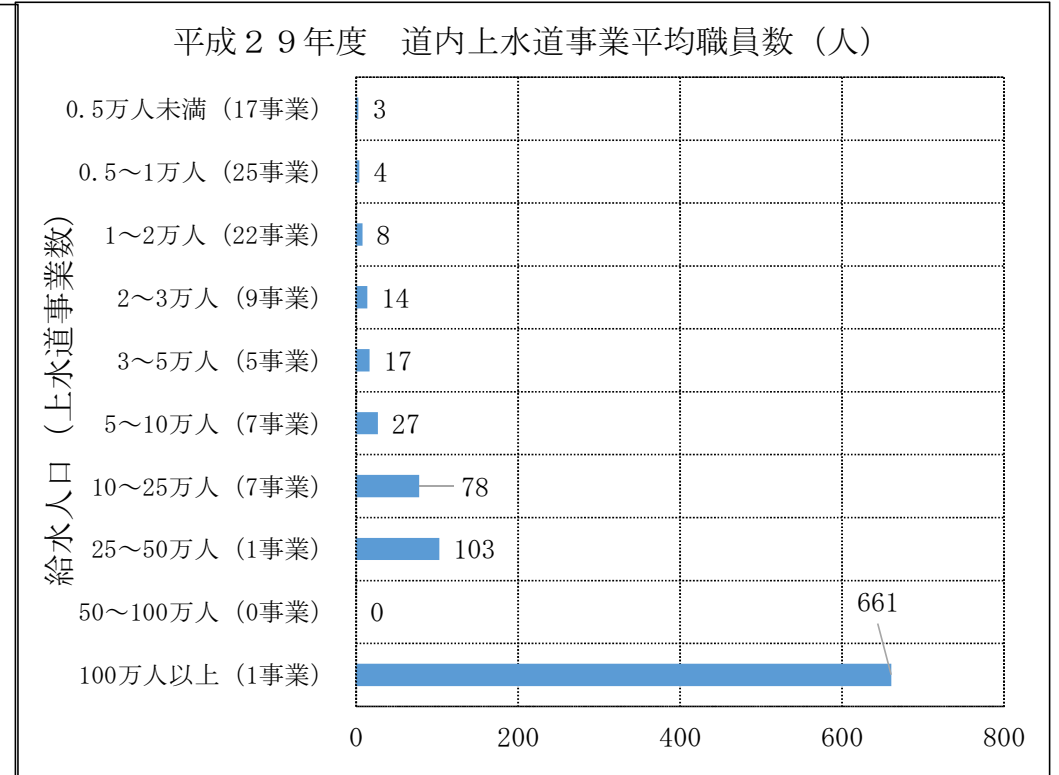
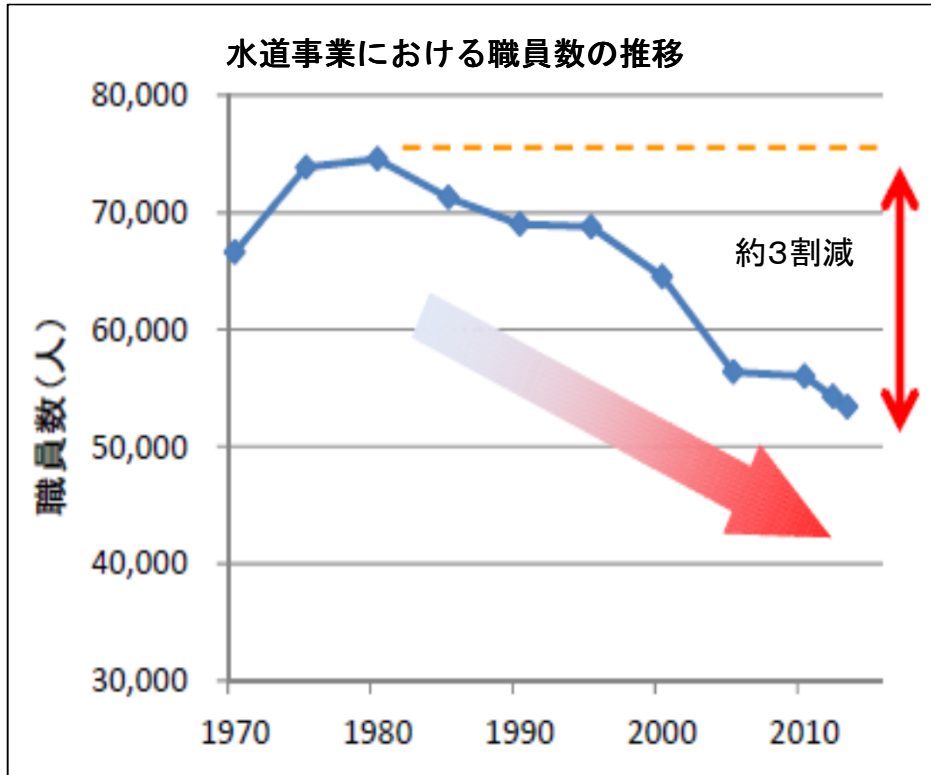
浄水施設の耐震化率



※水道統計より

道内の水道が抱える課題③

●水道職員の減少・技術の継承



※水道統計より

道内における広域連携の事例

● 区域を越えた事業統合(企業団方式による広域水道)

区分	企業団名	創設認可年	受水団体数	受水団体名
上水	長幌上水道企業団	S 4 2	2	長沼町、南幌町
	西空知広域水道企業団	S 4 6	3	新十津川町、雨竜町、浦臼町
	月新水道企業団	S 4 9	2	月形町、新篠津村
	中空知広域水道企業団	S 5 7 (末端給水開始H18)	4	滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町
用水供給	桂沢水道企業団	S 3 1	3	岩見沢市、美唄市、三笠市
	石狩東部広域水道企業団	S 4 9	6	千歳市、江別市、恵庭市、北広島市、由仁町、長幌上水道企業団
	北空知広域水道企業団	S 5 4	5	深川市、妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町
	十勝中部広域水道企業団	S 5 7	7	帯広市、音更町、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、池田町
	石狩西部広域水道企業団	H 4	4	札幌市(平成37年度供給開始予定)、小樽市、石狩市、当別町
	9 企業団		36	

※道内179市町村のうち、市町村の区域を超えた広域水道による事業統合に関与しているのは36市町村20.1%

● 水道事業者間の広域連携

① 浄水場の共同化

- ・旭川市・鷹栖町(石狩川浄水場)(S63)
- ・旭川市・東神楽町(忠別川浄水場)(H21)
- ・室蘭市・登別市(千歳浄水場)(H23)
- ・中札内村・更別村(南札内浄水場)(H2)

② 緊急時連絡管

- ・旭川市・当麻町(H21)
- ・札幌市・江別市、札幌市・小樽市、札幌市・北広島市(H29)

③ 事業統合

- ・釧路市・釧路町上水道事業統合(H25)

④ 共同委託

- ・木古内町・知内町(施設維持管理等)(H30)

北海道における広域連携に向けた取組

○地域別会議

- ・北海道水道ビジョン(H23.3策定)、水道整備基本構想(H25.3改定)の内容を具体的に推進するための場。
- ・平成25年度から道内6地域で開催。(延べ21地域で28回開催)
- ・北海道、水道事業者等、民間事業者などが参加。
(延べ 水道事業者等:355事業者485人 民間事業者:512事業者903人参加)
- ・各水道事業者等の諸課題について情報共有・意見交換を行うとともに、水道事業者等の広域連携や多様な運営形態の推進について、意見交換・取組方策について検討。

○勉強会

- ・広域連携をより具体的に進めるために主に道が調整し、意見交換・検討する場。
- ・平成26年度以降、空知・上川・渡島・檜山・オホーツク等の一部地域で適宜開催。